

# 長岡 あーかいぶす 創刊号

発行/長岡市立中央図書館文書資料室 <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>

## 文書資料室の魅力

### 文書資料室長 稲川明雄

平成 10 年 4 月 1 日に文書資料室が開設されてから、もう 7 年がたとうとしている。その間、文書資料室は地域資料・行政資料の整理保存機関として、十分な役割を果たしてきた。

しかし、その活動が人口に膾炙しているかということ、十二分でないようである。だいいち、文書なんて、何やら役所めいた固有名詞に、戸惑ってしまうらしい。

歴史的資料を集めて、保存・公開しているところが文書資料室であるが、その資料という名についても、一般的ではない。そういうところがなじまないのかもしれないが、人は案外、過去の出来事を大切にしているものである。

温故知新は古今東西、人間生活には欠かせない格言のひとつであるが、文書資料室をそんな郷土の歴史を集めているところだと気安く利用してもらいたいと考えている。

人生に順境、逆境もあるが、そんなとき、文書資料室を利用して、昔人の努力を偲ぶのも、楽しい現代の哲学だと思う。

誌名の由来；アーカイブス (Archives) は、日本では「文書館」「公文書館」と翻訳される。古文書や公文書などの歴史的な文書を保存・公開する施設で、海外ではライブラリー (図書館)、ミュージアム (博物館) とともにポピュラーな文化施設である。

## 《所蔵資料》

平成 17 年 3 月 31 日現在

区分	原資料	複写資料	マイクロ資料	写真・ボジスライド
点数	42,499	12,983	2,968	37,992
区分	図書・冊子 複製図書	行政文書	新聞複製	合計
点数	7,047	35,125	398	139,012

## 《年度別利用者数》

年	10	11	12	13	14	15	16	17	計
男	319	407	655	825	867	842	741	351	5,007
女	45	120	123	208	195	188	103	77	1,059
計	364	527	778	1,033	1,062	1,030	844	428	6,066

※平成 17 年度は 8 月 31 日現在。行事参加者数は除く。

## 《文書資料室の歩み》

平成 10 年 4 月 1 日開設 (市史編さん室が前身)

### ◇歴代室長

長谷川勉 (H10)、本山幸一 (H11~13)  
松崎弟史 (H14~16)、稲川明雄 (H17~)

### ◇刊行物・行事等

☆長岡市史双書

- No.38 長岡藩政史料集(5)御蔵と御蔵役所(H11)  
39 三島億二郎日記(3) (H12)  
40 三島億二郎日記(4) (H13)  
41 長岡藩政史料集(6)長岡藩の家臣団(H14)  
42 長岡の鋳物師・酒造・石工(H15)  
43 再興長岡藩史料集(H16)  
44 長岡城之面影－長岡城下年中行事－(H17)

☆古文書解説講座 (H10~)

※共催/長岡郷土史研究会

※テキスト「古文書に見る長岡のすがた」(その 1~4) を編集・発行 (H14~)

☆長岡市史を読む会 (H10~14)

☆長岡市史双書を読む会 (H15~)

☆チャレンジ古文書！初心者のための少人数講座 (H17~)

☆その他

- ・長岡郷土史研究会事務局 (H10~)
- ・(仮称)「市政 100 年のあゆみ」編集委員会事務局 (H16・17)
- ・被災した歴史的資料の救済事業 (H17~)
- ・「災害アーカイブス」の新設事業 (H17~)  
(稲垣美知子)

いよいよ完成！

# (仮称)『市政 100 年のあゆみ』

～ 平成 18 年 3 月刊行予定 ～

平成 18 年（2006）4 月 1 日、長岡市は市制施行 100 周年を迎える。長岡市では、これをきっかけにさまざまな記念事業を計画しており、(仮称)「市政 100 年のあゆみ」の編集・発行もその一つとして取り組んでいるものである。

編集は、歴史研究者や行政経験者など 10 人の委員からなる(仮称)「市政 100 年のあゆみ」編集委員会（下表）を組織。平成 10 年 10 月 4 日に第 1 回編集委員会を開催し、文書資料室が事務局を務めている。

(仮称)「市政 100 年のあゆみ」編集委員  
敬称略・五十音順

役職	名	前
委員	今井雄介	(歴史研究者)
◎ 委員	内山 弘	(歴史研究者)
委員	金垣孝二	(市職員)
委員	下田三智夫	(行政経験者)
委員	新保欽司	(行政経験者)
○ 委員	関 哲生	(行政経験者)
委員	竹日純一	(行政経験者)
委員	田邊幹	(歴史研究者)
委員	福原淳一	(行政経験者)
委員	松本和明	(歴史研究者)

◎委員長 ○副委員長

## 市制ではなく市政がテーマ

(仮称)「市政 100 年のあゆみ」の一番の特徴は、過去 100 年間の長岡市政をまとめるということである。市制 100 年ではなく「市政 100 年」とすることによって、既刊の『長岡市史』関係の本で記述されなかった出来事が取り上げられるほか、今までと異なった視点から長岡市政を見ることができる。もちろん福祉や文化など市民生活とのかかわりの深い分野についても取り上げられている。

本書は年表をベースとする、いわば長岡の近代史の基礎資料といえるものであるが、今までこれほどまでに詳細なものは刊行されておらず、まちづくりの歴史を調べる基本資料としても十分活用できる本となる。

## 《目次案》

口絵

プロローグ～近代長岡の幕開けと市域の変遷～

### I 市政プロジェクト

### II 市政 100 年のあゆみ

- 1 明治・大正期の市政（明治 39 年～大正 14 年）
- 2 昭和前期の市政（大正 15 年～昭和 20 年）
- 3 戦後復興期の市政（昭和 21 年～昭和 30 年）
- 4 高度経済成長期の市政（昭和 31 年～昭和 44 年）
- 5 昭和後期の市政（昭和 45 年～昭和 63 年）
- 6 平成期の市政（昭和 64 年～平成 17 年）

### III 合併 9 市町村のあゆみ

### IV 市政を担った人びと





☆図は割付見本（写真などはイメージ）。

☆戦前は 1 年を 1 ページ、戦後は 1 年を 2 ページで掲載。

☆年表、写真、トピックスでその年の出来事をわかりやすく紹介。

☆市役所所蔵の記録写真を中心にたどる市政 100 年のあゆみ。

## 写真と図版を多用し四つの内容で紹介

(仮称)「市政 100 年のあゆみ」は、大きく分けて次の四つ内容から構成される。

### ○市政プロジェクト

市政の画期となった 13 の項目を紹介。長岡市政の特徴、全国に誇れる取り組みがわかる(タイトルは仮題)。

- 1 水道タンクの誕生～上下水道の敷設～
- 2 工業立市宣言～蔵王工業地帯の造成～
- 3 戦災復興と長岡まつり  
～焦土から立ち上がる長岡市民～
- 4 雪害から克雪・利雪へ～無雪都市をめざして～
- 5 長岡ニュータウンの建設  
～自然と調和した理想の都市づくり～
- 6 「米百俵」の精神  
～小林虎三郎の思想と長岡の教育～
- 7 上越新幹線と関越・北陸自動車道  
～高速交通体系の整備～
- 8 循環型社会を目指して  
～ごみの減量化とリサイクル～
- 9 男女共同参画のまちづくり～女性政策の推進～
- 10 国際交流の推進  
～個性豊かな国際文化都市をめざして～
- 11 「ともに生きる社会」の実現をめざして  
～ともしび運動スタート～
- 12 千秋が原整備事業～川西地域の発展～
- 13 7・13 水害と新潟県中越大震災  
～地域の復興に向けて～

### ○市政 100 年のあゆみ

年表と写真・表から 1 年ごとにあゆみを紹介。また、その年の代表的な出来事をコラム風に紹介するトピックスも掲載する。年表の項目は 3,000 を超え、長岡の近代史を学ぶための学習資料として利用できる。

### ○合併 9 市町村のあゆみ

合併 9 市町村(中之島町・越路町・三島町・山古志村・小国町・和島村・寺泊町・栃尾市・与板町)の 100 年のあゆみをそれぞれ簡単な年表と写真で紹介。

### ○市政を担った人びと

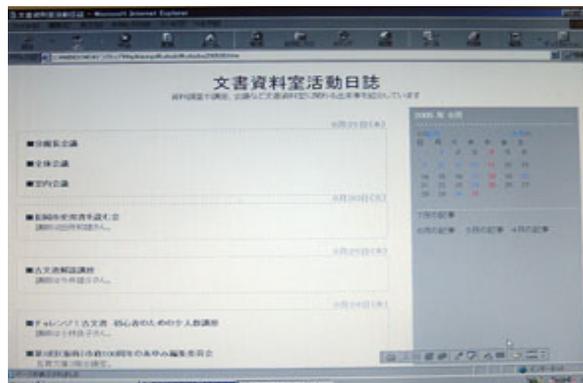
歴代市長・助役・収入役、市議会、教育委員会、行政委員会、監査委員、事務局など市政を担った人物の紹介。

本の体裁は B5 判、約 300 ページ。平成 18 年 2 月から予約受付の予定である(頒布価格未定)。(金垣孝二)

## 《インフォメーション》

### ● 文書資料室のホームページ紹介

<http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>



#### ▲ 情報満載の「文書資料室活動日誌」

調査・会議などの記録や予定がわかる「文書資料室活動日誌」の他、「長岡の歴史相談」「刊行物案内」「7・13 水害、中越大震災関係文献一覧」を掲載。随時更新で情報満載。

### ● 7・13 水害や中越大震災で被災した資料のご相談は文書資料室へ

家の建て替えや家財の整理の際に、お持ちの古文書や写真、手紙などの歴史資料の取り扱いに困っている方、保存方法等がわからない方はお気軽にご相談ください。また、災害アーカイブス設置のために、災害や復興に関する記録を収集しています。寄贈していただける方、情報をお持ちの方はご連絡ください。

### ● 文書資料室の入口にギャラリーを開設!

互尊文庫 2 階の雑誌・新聞閲覧スペース側



に写真パネルを展示しました。現在は、成願寺温泉養壽館文書を紹介。今後は、10 月「震災 1 周年 その日の互尊文庫・文書資料室」、11 月「懐かしい戦前の映画館」、12 月「安禅寺文書の世界」を予定しています(毎月 20 日ころ展示換えの予定)。

被災資料の救済活動の現状と課題

震災対応の二本柱

昨年10月23日の中越大震災以来、文書資料室では「被災した歴史的資料の救済」と「震災関係資料の収集」を二本柱に活動を展開している。前者は地震によって被災した地域に伝わる記録史料の散逸を防止すること、後者は地震によって生まれた災害記録を収集・保存することを目的とする。長岡市史編さん業務の継承と、長岡における文書館（アーカイブス）的機能を持つ施設であるという使命感が二本柱の活動に取り組む動機である。

本稿では、「被災した歴史的資料の救済」を中心に文書資料室の取り組みを報告したい。

救済活動の現状

救済活動は、震災直後から市の広報や地域に密着した報道機関を中心に呼びかけを行った。その結果、9月15日現在で51件の相談を受け付け、約650箱の被災資料を救済した。

これらの被災資料のほとんどは、震災により家屋や土蔵が損壊し、それまでの保管状態の維持が困難になったものである。土蔵に保管されていた商家の帳簿類、亡くなった先代が購入した旧庄屋家の古文書、家族が購読していた戦前の雑誌、子供の誕生日の記念に新聞を毎年保存したものなど、江戸時代から平成までの様々な由来を持つ資料が救済された。

特に近現代の「生活記録史料」ともいえる日記やノート、写真、チラシなどは、ありふれたものほど後世に伝わらないという事実をふまえると大変貴重な資料といえる。

《地区・地域別の相談件数》

9/15 現在

地区・地域名	件数	地区・地域名	件数	地区・地域名	件数
千手	1	大島	1	黒条	2
四郎丸	2	希望が丘	1	下川西	1
豊田	3	宮内東	4	宮本	1
坂之上	1	太田	2	越路	3
表町	4	山通	2	山古志	3
中島	1	栖吉	3	小国	3
神田	1	山本	4	市外	3
川崎	3	新組	2	計	51



▲被災資料を保管する長岡市役所浦瀬町倉庫

救済活動の方向性

救済した被災資料は現在、長岡市役所浦瀬町倉庫等に保管されている。これらの資料は10月上旬にくん蒸を実施し、殺虫・殺菌処理をほどこす予定である。保存処置を終えた被災資料は、10月から活動を開始する資料整理ボランティアと協働で目録作成作業を行い、整理が終了次第、順次公開し市民の歴史研究に活用される。町内会や地域の記録として貴重な資料は、公民館での展示なども含めて、震災復興の文化的な拠り所として活用されることを期待している。

また、市内の被災状況等を調査する歴史資料所在確認調査も長岡郷土史研究会と共催で実施する。今年度は東山沿いの被害の大きい地域が中心になるが、長岡市史編さんの際に調査をさせていただいた史料所蔵者に対する保存状況の確認アンケートや、合併市町村への調査も視野に入れながら悉皆的な調査を継続的に行う予定である。

8月に策定された長岡市復興計画には、「被災した文書等の歴史的資料の救済」と「災害アーカイブス」の新設の二事業も掲載された。伝統文化等の保存・再生、災害記録の有効活用を課題とするこれらの事業の推進に向けて、文書資料室の活動をさらに充実させる必要があると考えている。（田中洋史）

●資料整理ボランティア募集

7・13水害、中越大震災で被災した土蔵から救出された戦前の雑誌や古文書などの歴史的資料の整理や目録作成を手伝っていただけるボランティアを募集しています。郷土の歴史や古文書に興味のある方であればどなたでもOKです。詳しくは文書資料室までお問い合わせ下さい。

## 所蔵資料紹介（1）

### 成願寺温泉養壽館文書

本資料は、長岡市の東部、東山連峰の麓、成願寺町で温泉旅館・養壽館を経営していた高野家の文書である。

温泉の開業は明治4年。当時の主人は6代目高野斧左エ門。高野家は代々、長岡藩主・牧野家に仕えていた武士であった。昭和期には、当時としては珍しい大型の遊具があって市内外から多くの親子づれで賑わった。

資料は、東山の開発に力を入れ、成願寺温泉を長岡の名所に育てあげた高野久五郎氏（現在の当主・興一氏の祖父）の時のものがほとんどである。旅館のチラシ、パンフレット、絵葉書、張り紙、料理の献立表や、様々な商店などから旅館に宛てた文書があり、大正期から昭和初期の旅館経営がうかがえる好資料である。また、遊具の供出除外許可を求める申請書等、戦時下の旅館経営の状況がわかる資料もある。



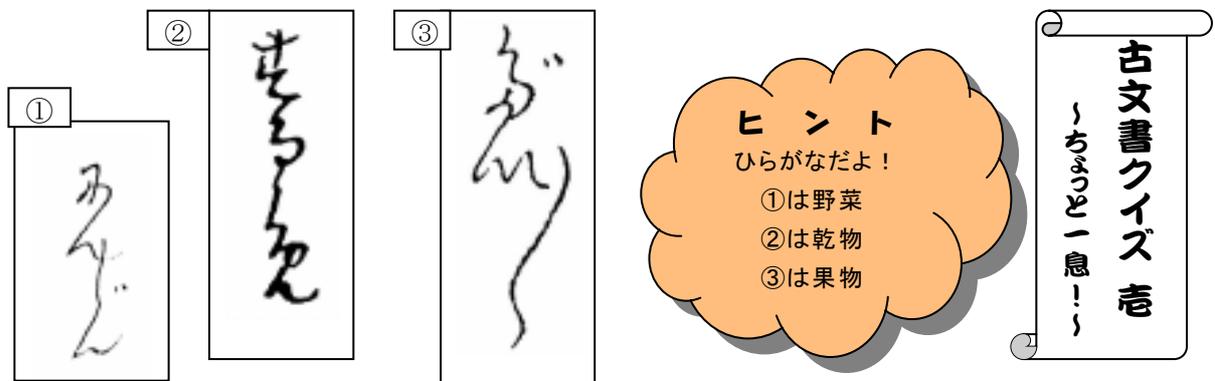
#### ▲養壽館の絵葉書 ※ギャラリーに展示中

養壽館は、なじみ客も多く温泉旅館として長い歴史を守っていたが、昨年の中越大震災で大きな被害をうけ建物を閉鎖した。今年7月7日、高野氏から当室へ調査の依頼があり、翌8日に訪問調査を実施し、資料の一時保管を受け付けた。

平成17年9月14日に長岡市へ寄贈。整理総数は270点。（小林良子）

#### 《平成16年4月以降に新たに公開した所蔵資料一覧》 ※寄贈年月日順。☆印は被災資料。

- ・長岡女子師範学校資料（近代、教育史関係資料、438点、悠久会寄贈）
- ・杉野家文書（近代、戦時関係資料、19点、佐藤祥子氏寄贈）
- ・土屋綾子家文書（近代・現代、古文書・和本、5点、同氏寄贈）
- ・佐藤齐家文書（近代、戦時関係資料、13点、同氏寄贈）
- ・尾身栄一氏収集文書（現代、書籍等郷土史研究関係資料、458点、尾身徳氏寄贈）
- ☆岩井トミ子氏収集文書（近代、関東大震災写真、1点、同氏寄贈）
- ・佐藤ケイ家文書（現代、米百俵演劇（昭和26年）写真・冊子、5点、同氏寄贈）
- ・瀬水静江家文書（近代、教育資料、5点、同氏寄贈）
- ☆岩崎善一郎家文書（近代、目録・書籍、13点、同氏寄贈）
- ☆栗林重二郎家文書（近代、写真、2点、同氏寄贈）
- ・田中尠家文書（現代、昭和20・30年代の長岡市写真、48点、同氏寄贈）



①～③の読みと住所・氏名・電話番号を記入のうえ、葉書・FAX・メールで文書資料室へお知らせ下さい。平成17年11月30日必着です。

3問すべてに正解した方の中から抽選で5名の方に粗品を差し上げます。なお、当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

連載 長岡の碩学(1)

## 笠輪 勝太郎 (1904.11-1991.2)

安禅寺文書が長岡市の文書資料室の所蔵資料の中核となっている。その安禅寺文書の発掘・保存の中心になったのは、長岡郷土史研究会会長の笠輪勝太郎さんだった。

笠輪勝太郎は、明治37(1904)年11月17日生まれ。速記技術を持ち、長岡市の事務吏員として活躍した。市議会の事務局長、総務部長を歴任したのち、長岡市助役を務めた。

その一方、確かな批判眼を持ち、文学・歴史を愛好するロマンチストでもあった。朝鮮の羅南歩兵連隊に入るところから詩作をし、文学青年となり、広川白路などの労農詩人を応援している。これは、「無蓋居」(むがいきよ)というペンネームで、終生、地元新聞誌に作品(随筆・論文・詩作)を投稿する形で続いた。

日記に「自己の職業に対する嫌厭さ」と書くほど、役人生活と文学への希求の二重生活に苦しんだ。

そういう笠輪勝太郎だったから、郷里長岡の歴史に興味がつきなかったようだ。

たとえば、蔵王橋下の家屋移転事業を推進するにあたって、住民から、住宅が何故に河川敷にあったのかを知って大きな衝撃をうけた。そこで、その歴史由緒を探ることが、行政の根幹になると考え、地域の資料を漁るようになった。

まさに蔵王の安禅寺文書との出会いは、そのような行政経験から生まれた所産だった。ついで小川襄家資料を発掘し、松田家などの蔵王地区の資料が笠輪勝太郎の手で保存されることになった。

そういう笠輪勝太郎の隠れた業績が、当時、長岡市立互尊文庫館長の内山喜助の知るところとなり、長岡郷土史研究会に入会し、助役退任後、第3代会長となった。

笠輪勝太郎のライフワークは蔵王の歴史をあきらかにすることであった。しかし、その一方で長岡空襲資料の収集に努め、現在、長岡空襲殉難者名簿の作成は、笠輪勝太郎の労作である。

いまは閲覧できなくなったが笠輪勝太郎は戸籍簿を一冊ずつ確認し、戦災死亡者名簿を丹念に作成している。それまで、申告した戦災殉難者が1143名であったものを、

一気に1460余名以上の実態数にしたのは笠輪勝太郎の隠れた業績である。

勿論、長岡市の戸籍は戦災で焼失したのだから困難を極めた。幸い旧深才村役場に、戦災者の届出があったから、昭和48年から、毎日のようにバスを通ったという。それでも、実態数には50余名足りない結果がでていたというのが笠輪勝太郎の生前の不満だった。

笠輪勝太郎は、平成3(1991)年2月10日に没するが、生涯、郷土に対する愛情が深かった。『長岡郷土史』に記載されている「蔵王堂城とその城下町について」などの論考も多いが、西蔵王2丁目の安禅寺境内にある笠輪勝太郎揮毫の石碑が称美である。「過去を追憶し、事由を石に刻んで後人の参考にする」と。(稲川明雄)



▲安禅寺境内の笠輪勝太郎揮毫の石碑

**関連情報** 笠輪勝太郎の旧蔵書は長岡市へ寄贈され、図書資料は笠輪勝太郎文庫として中央図書館で、文芸資料や行政資料等は笠輪勝太郎家文書として文書資料室で、閲覧することができる。

《編集後記》被災資料の救済活動で大活躍の浦瀬町倉庫。実は資料の保管場所は2階で、エレベータがありません。一步一汗が史料保存につながると信じて、階段を昇る日々が続いています。本誌もまた、史料保存という大テーマで市民と文書資料室と史料所蔵者とをつなぐ一助になればと願っています。(H・T)

平成17年9月20日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室  
スタッフ／稲川明雄、金垣孝二、稲垣美知子  
小林良子、田中洋史

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20  
(長岡市立互尊文庫2階)

TEL 0258-36-7832、Fax 0258-37-3754

E-mail: monjo@nct9.ne.jp